
令和5年度鶴見区運営方針

鶴見区役所
令和5年4月
(令和6年6月更新)

目 次

柱 1 つながる・支えあう

- | | | |
|-------|----------------------------|------|
| 1 - 1 | 気にかける・つながる・支え合う地域づくり | P3～6 |
| 1 - 2 | だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり | P7～8 |

柱 2 備える

- | | | |
|-------|---------------------|--------|
| 2 - 1 | 災害に強いまちづくり | P9～12 |
| 2 - 2 | 街頭犯罪等や交通事故の少ないまちづくり | P13～15 |

柱 3 育てる・まなぶ

- | | | |
|-------|-----------------|--------|
| 3 - 1 | 安心して子育てできる環境づくり | P16～19 |
| 3 - 2 | まなびを通じたつながりづくり | P20～22 |
| 3 - 3 | 学校教育の支援 | P23～24 |

柱 4 聴く・伝える

- | | | |
|-------|-------------------|--------|
| 4 - 1 | 区政情報の発信及び区民ニーズの把握 | P25～27 |
|-------|-------------------|--------|

柱 5 共に生きる

- | | | |
|-------|-------------------|--------|
| 5 - 1 | 環境を守り自然と共生したまちづくり | P28～29 |
|-------|-------------------|--------|

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱 1 つながる・支えあう
	経営課題	1 だれもが地域で安心して暮らせるまちづくり
施策 1 - 1	方向性	気にかける・つながる・支え合う地域づくり
	内容	人と人とのつながりにおいて、お互いが配慮し存在を認め合い、支え合うことで、地域で孤立せずその人らしい生活を送ることができるような、「気にかける・つながる・支え合う地域づくり」を進めます。
① 成果指標（中期）		① 区民アンケートで「日常生活の中で『お元気ですか』や『何かお困りですか？』など住民同士の『声かけ』『見守り』『支え合い』が行われていると感じる」と回答した区民の割合 ② 「地活協の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組みが自律的に進められている状態にあると思う」と評価した各地域活動協議会運営委員の割合 ③ 区民アンケートで「運動や食生活など、健康に関する取組みを行っている」と回答した区民の割合

② 目標・実績値

	(R04)	R05	R06	R07	R08	R09
目標	① 40%以上 ② 89% ③ 80%以上	① 40%以上 ② 90%以上 ③ 80%以上				① 60%以上 ② ■ %以上※ ③ 80%以上
実績	① 34.1% ② 88.4% ③ 83.2%	① 37.8% ② 94.8% ③ 81.6%				

※「2」の指標・数値については、「市政改革プラン3.1」に基づき設定しており、R09の目標値については、現時点では未設定

③ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標①については、目標値40%に対し実績値37.8%であり、目標値には至らなかったものの、前年度実績値34.1%やコロナ禍前の令和元年度実績値34.3%を上回っている。つなげ隊への相談実績や「あいまち」の継続希望状況を踏まえると、困りごとに対する「支え合い」の役割は果たしているところであり、今後は、こうしたセーフティネットの存在を区民全般に広く周知していく必要がある。
- 成果指標②については、目標値90%に対し実績値94.8%であり、まちづくりセンターと課題を共有し、各地域課題に即したきめ細やかな支援を行った成果があらわれたと考えられる。
- 今後も関係機関や地域等とも十分連携したうえで、隣近所でのあいさつなどの声かけや見守りなどを促し、人と人とのつながりにおいて、お互いが配慮しお互いを認め合い、支えあうことで、地域で孤立せずその人らしい生活を送ることができるような、「気にかける・つながる・支えあう地域づくり」を進めていく。
- 成果指標③については、前年度実績値83.2%より微減であったが、目標値を上回る81.6%となった。健康増進のために知りたい内容としては、前年度と同様に「栄養・食生活」（63.0%）、「運動」（47.1%）、「休養・こころの健康」（35.5%）、「生活習慣病等」（30.2%）が上位を占め、その中でも「栄養・食生活」への関心の割合が前年度と比べて高まっている（54.0%→63.0%）。
- 今後も引き続き区民の健康増進意識の向上を図るため、食生活の改善や運動など健康に関する取組みの機会を提供するべく、各種イベントの開催や広報紙・SNS等を活用した情報発信を継続していく。

令和 5 年度鶴見区運営方針

単年度計画・目標・実績	具体的取組 1 - 1 - 1 【地域福祉力の向上】
-------------	----------------------------

④ 当年度の取組内容（予定）

✓ 地域の相談窓口業務や関係機関との連携の充実 ・地域福祉コーディネーター（つなげ隊）の配置 ・コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置 ✓ 住民同士の助け合い活動の支援 ・地域有償ボランティア活動（あいまち）の実施 ・つなげ隊及びあいまち会員への研修開催

※前年度と異なる取組内容「下線」

⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）
・ つなげ隊が対応した地域住民等からの相談件数 ・ あいまち会員の会員登録継続意向アンケートで「今後も続けていきたい」と回答した割合

	R03	R04	R05
目標	・2,000件以上 ・(未設定)	・2,000件以上 ・60%以上	・4,500件以上 ・60%以上
実績	・4,731件 ・(未測定)	・3,931件 ・50.3%	・4,365件 ・79.6%

⑥ 当年度の取組内容（実績）

・ ④に記載の取組みを予定どおり実施。

⑦ 当年度の評価結果（定性含む）

・ 地域の福祉課題に関する相談窓口として、各地域に配置している地域福祉コーディネーター（つなげ隊）への相談件数は4,365件であり、目標値には至っていないが、令和4年度の実績値3,931件やコロナ禍前の令和元年度の実績値2,339件を上回っており、地域の身近な相談窓口・地域に必要な助け合い活動が着実に定着しつつある。 ・ 地域有償ボランティアであるあいまち会員に対する会員登録継続意向アンケートで「今後も続けていきたい」と回答した割合は79.6%であり、目標を達成することができた。
--

⑧ 次年度の取組みの方向性

・ 地域の身近な相談窓口・地域に必要な助け合い活動をさらに定着させるため、つなげ隊について区広報紙に定期的に掲載し、その主な活動及び連絡先等の周知を行う等広報強化に努める。また、各地域においてネットワーク委員会等の活動と連携して地域福祉活動を行う中で各地域における認知度向上を図るとともに、各種研修や地域の集まりなどでの積極的な情報発信に努める。 ・ 引き続きあいまち会員が安心して依頼・活動できるよう、あいまちの委託先と連携しながら、あいまちの広報活動の強化、利用の促進に向けた取組みを進める。
--

単年度計画・目標・実績	具体的取組 1 - 1 - 2 【地域活動協議会による自律的な地域運営の促進】
-------------	---

④ 当年度の取組内容（予定）

- ✓ 地域の実情に応じたきめ細やかな支援
 - ・町会加入促進リーフレットの転入者等への配付
 - ・不動産会社と連携し、不動産契約者等への情報発信
- ✓ 地活協の意義や求められる機能の理解促進
 - ・各地域の運営委員会での準行政機能に係る情報発信
 - ・総意形成機能に関する助言・指導
- ✓ 区の状況に応じた支援の実施
 - ・まちづくりセンターと連携した支援の実施
 - ・新しい生活様式に適した活動支援

※前年度と異なる取組内容「下線」

- ⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）
- ・「**地活協の構成団体が、自分の地域に即した支援を受け**ることができていると感じる」と評価した各地域活動協議会運営委員の割合
 - ・「**地活協の構成団体が地活協に求められている準行政機能を認識している**」と評価した各地域活動協議会運営委員の割合
 - ・「**地活協の構成団体が地活協に求められている総意形成機能を認識している**」と評価した各地域活動協議会運営委員の割合

	R03	R04	R05
目標	・90% ・80% ・65%	・90% ・80% ・70%	・90% ・80% ・70%
実績	・80.6% ・58.3% ・62.5%	・82.5% ・52.1% ・51.8%	・82.7% ・68.5% ・73.2%

⑥ 当年度の取組内容（実績）

- ・④に記載の取組みを予定どおり実施。

⑦ 当年度の評価結果（定性含む）

- ・まちづくりセンターと連携して各地域課題に即したきめ細やかな支援を継続して実施してきたが、「自分の地域に即した支援を受けられることができていると感じる」と評価した割合については、目標値90%には至らず、昨年度並みの実績値82.7%となっており、ほぼ横ばいの状態となっている。これは各構成団体が自律的に取組みを進めている状況から、支援を要する態様の濃淡も顕著となり、支援の必要性が薄くなっている団体が増えてきているとも考えられる。
- ・地活協の意義・機能について、各地活協の運営委員会や補助金説明会など様々な機会を活用し、準行政的機能に係る情報発信や総意形成機能に関する助言の実施を通して理解促進を図ったことから、準行政的機能の認識度については、目標値80%には至らなかったものの実績値68.5%と昨年度より16.4ポイント上昇し、総意形成機能の認識度については実績値73.2%と、目標値70%を上回るとともに、昨年度実績より大幅に上昇した。

⑧ 次年度の取組みの方向性

- ・地活協による自律的な地域運営の促進に向け、引き続きまちづくりセンターと連携したきめ細やかな支援に取り組むとともに、地活協の役割・活動内容等の情報を、様々な広報媒体、機会をとらえ積極的かつ戦略的に情報発信していく。

令和 5 年度鶴見区運営方針

単年度計画・目標・実績	具体的取組 1 – 1 – 3 【健康増進意識の向上】
-------------	-----------------------------

④ 当年度の取組内容（予定）

✓ 区民の自主的な健康づくりを進めるための取組み	
・食育フェスタの開催 1 回	・健康展の開催 1 回
・健康に関する講演会の開催 1 回	・ウォーキング教室の開催 1 回
・ウォーキングカレンダーの発行	・食育に関する調理実習の開催
・百歳体操などの地域・関係機関等による健康づくり活動の継続実施に向けた支援	
✓ 「栄養・食生活」「運動」「たばこ」などの健康に役立つ情報発信	
・広報紙、ホームページ、フェイスブック、啓発チラシの配布（随時）	
・がん検診・乳幼児健診など区が実施する保健福祉事業の際に啓発実施	

※前年度と異なる取組内容「下線」

⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）
イベント参加者へのアンケートで「健康に関する取組みへのきっかけとなった」と回答した区民の割合

	R03	R04	R05
目標	70%以上	70%以上	70%以上
実績	97.1%	87.4%	94.4%

⑥ 当年度の取組内容（実績）

・ ④に記載の取組みを予定どおり実施。

⑦ 当年度の評価結果（定性含む）

・ 成果指標の実績値は94.4%で、目標値70%を上回る結果となった。
・ 新型コロナウイルス感染症が 5 類へ移行した令和5年5月より、類型相当の基本的な感染防止対策を講じながら各種イベント等を開催した。特に調理実習においては試食を再開させるなど、開催手法を切り替えていく年度となった。
・ 食育フェスタ＆健康展やウォーキング教室、調理実習など参加者の満足度は高くなった。

⑧ 次年度の取組みの方向性

・ 今後も区民の健康増進意識の向上を図るため、食生活の改善や運動など健康に関する取組みの機会を提供するべく、各種イベントの開催や広報紙・SNS等を活用した情報発信を継続していく必要がある。
--

令和 5 年度鶴見区運営方針

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱 1 つながる・支えあう
	経営課題	1 だれもが地域で安心して暮らせるまちづくり

施策 1－2	方向性	だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり
	内容	支援を必要とするすべての人に必要な支援が行き届く地域社会の実現に向けて、生活の場である地域を基盤として、「だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり」をめざします。

① 成果指標（中期）	区民アンケートで「地域で支援を必要としている人に必要な支援が行き届く地域社会になっていると感じる」と回答した区民の割合
------------	---

② 目標・実績値

	(R04)	R05	R06	R07	R08	R09
目標	－	30%以上				40%以上
実績	37.8%	34.4%				

③ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標は実績値34.4%であり、前年度の37.8%を下回ったものの目標値30%は上回った。福祉課題が一層複雑化・多様化・深刻化し、複合的な課題を抱えた人や世帯が多数存在する中で、引き続き相談や対応が行えるよう、「総合的な相談支援体制の充実事業の普及促進」「相談支援体制を支える人材の育成確保」「権利擁護支援体制の強化」に努め、見守り相談室を含めた相談支援体制の充実を図る。

単年度計画・目標・実績	具体的取組 1 – 2 – 1 【相談支援体制の充実】
-------------	-----------------------------

④ 当年度の取組内容（予定）

- ✓ 区民に対する認知症対策の普及啓発
 - ・「大阪市認知症アプリ」などを活用した認知症の普及啓発
- ✓ 区役所職員に対する認知症の普及啓発
 - ・養成講座の開催
- ✓ 複合的な課題を抱えた要援護者などに対応するために、地域と専門職、専門職間のネットワークづくりを進め、相談支援体制の充実を図ります。
 - ・総合的な支援調整の場（つながる場）の開催：通年

※前年度と異なる取組内容「下線」

- ⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）
- ・「大阪市認知症アプリ」の活用方法の説明を受け、①及び②の合計人数
 - ①ダウンロードを完了した方の人数
 - ②「大阪市認知症アプリ」のコンテンツである「わたしのケアノート」(印刷物)を受け取った方の人数
 - ・つながる場の参加者へのアンケートで「関係者が一堂に会することで、要援護者(要援護世帯)の抱える問題を解きほぐすことができ、支援の見通しがたった」と回答した割合

	R03	R04	R05
目標	・500人以上 ・（未設定）	・500人以上 ・（未設定）	・500人以上 ・60%以上
実績	・925人 ・（未測定）	・656人 ・（未測定）	・468人 ・27%

⑥ 当年度の取組内容（実績）

- ・④に記載の取組みを予定どおり実施。

⑦ 当年度の評価結果（定性含む）

- ・認知症に関する正しい知識と理解の普及促進を進めるべく、「大阪市認知症アプリ」や「わたしのケアノート」の利用周知に努めたが、目標500人には及ばなかった。引き続き区役所をはじめ、関係機関窓口での周知や広報に努めていく。
- ・区役所職員に対する認知症の普及啓発・養成講座を3回実施し、62人の参加を得た。
- ・総合的な相談支援体制の充実事業（つながる場）を2回開催し、参加者アンケートの実績値は27%と目標値60%を大きく下回った。つながる場の開催目的には「支援の方向性の確認」の他に「情報共有」などもあり、各回10名程度の参加の中で、参加目的により回答に偏りが出る指標となっていた。令和6年度については、指標を「困難な事例に対し『つながる場』において情報共有や支援の方向性が確認できた」に変更し、改めて検証する。

⑧ 次年度の取組みの方向性

- ・地域で暮らす認知症の人や家族の困りごとの支援ニーズに対応できるよう、認知症サポーターの拡充を図ることとし、区民向けの認知症サポーター養成講座やステップアップ研修の開催等の取組みを進める。
- ・複合的な課題を抱えた人に対し、専門家等（スーパーバイザー）の助言を活用しながら、各相談支援機関や地域住民、行政等が分野を超えて連携し、支援することができる総合的な相談支援体制の充実に向け、関係機関や職員に向け研修を行う。



中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱 2 備える
	経営課題	2 安全なまちづくり

施策 2 - 1	方向性	災害に強いまちづくり
	内容	今後想定される大規模な自然災害に対する備えとして、区民の防災意識の向上と、地域防災力の強化に向けた支援、区災害対策本部の機能強化に努めます。

① 成果指標（中期）	区民アンケートで「鶴見区で実施している取組み（区民の防災意識の向上や地域防災力の強化に向けた支援など）が、今後の災害に対する備えにつながっていると感じる」と回答した区民の割合
------------	---

② 目標・実績値

	(R04)	R05	R06	R07	R08	R09
目標	－	70%以上				75%以上
実績	71.3%	64.4%				

③ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標は目標値70%に対して実績値が64.4%となり、目標値や前年度実績値71.3%を下回った。
- 区防災計画等の取組みの周知のほか、区災害対策機能の強化に向けた方策を検討したうえで、自助・共助・公助の視点を盛り込んだ各種取組みにより、今後想定される大規模な自然災害に対する備えとして、区民の防災意識の向上と、地域防災力の強化に向けた支援、区災害対策本部の機能強化に努める。

令和 5 年度鶴見区運営方針

単年度計画・目標・実績	具体的取組 2 - 1 - 1 【防災意識の向上（自助）】
-------------	-------------------------------

④ 当年度の取組内容（予定）

✓ 区民の防災意識の向上を図るため、自助とその後の共助の重要性につながる意識向上に向けた取組み
・出前講座の実施
・安全・安心フェスタの開催
・小学生・中学生・高校生を対象とした防災学習会の開催
・広報つるみ防災特集号の発行、防災記事の掲載
・転入者セットとして新しい防災・避難マニュアル、市民防災マニュアル、防災マップ、ハザードマップを配布する。

※前年度と異なる取組内容「下線」

⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）		R03	R04	R05
区民アンケートで「災害時の避難場所の確認や個人（家庭）での備蓄など、いざという時に備えている」と回答した区民の割合	目標	－	80%以上	80%以上
	実績	79.4%	95.3%	75.6%

⑥ 当年度の取組内容（実績）

・ ④に記載の取組みのうち、「高校生を対象とした防災学習会」については実施できていない。その他の取組みはすべて行った。

⑦ 当年度の評価結果（定性含む）

・ 成果指標の実績値は75.6%であり目標値80%に至らなかったが、一方で「自分の災害時避難所がどこにあるかを知っている」区民の割合は80.9%と前年度実績値76.2%より4.7ポイント上昇している。引き続き災害時避難所の場所やその備えの大切さについて周知していく必要がある。
・ 「いざという時に備えている」と回答した区民の内訳は、「食料や飲み水の備蓄」60.0%、「家族と避難場所・避難経路の確認」31.5%、「家具の転倒防止」28.9%、「家族等と連絡手段・集合場所等の決定」23.7%、「家の内外の危険箇所のチェック」17.2%であったが、そのうち令和 5 年度に何らかの対策を始めたという回答の割合は 5.9%であった。

⑧ 次年度の取組みの方向性

・ 引き続き、避難場所や備蓄などの大切さを認識してもらえよう、また区民の防災意識の向上を図るため、自助とその後の共助の重要性につながる意識向上に向けたイベント、出前講座、防災学習会の実施や広報紙への防災記事の掲載を行うなど対策を進めていく周知を行う。
・ また、転入者には市民防災マニュアル等活用した啓発を行う。

令和 5 年度鶴見区運営方針

単年度計画・目標・実績		具体的取組 2－1－2 【地域防災・減災力の向上（共助）】			
④ 当年度の取組内容（予定）					
✓ 区民の共助に向けた防災意識の向上の取組み ・防災訓練、避難所開設運営訓練の実施 12地域 ・つるみんピックの開催 1回 ・災害時地域貢献協力事業所の情報を地域と共有し、協力事業所に訓練参加を呼びかける。 ・個別避難計画の策定（モデル地域 1 地域）					
※前年度と異なる取組内容「下線」					
⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）			R03	R04	R05
地域が行う訓練の参加者へのアンケートで「役立った」と回答した区民の割合		目標	80%以上	80%以上	80%以上
		実績	81.7%	88.1%	92.1%
⑥ 当年度の取組内容（実績）					
・ ④に記載の取組みのうち、「つるみんピック」は、地域防災連絡会で12地域の意見を聞いた結果、地域防災リーダー研修をタイムトライアルを取り入れた競技会形式で行う今までの方法を改め、令和5年度より、各地域において、一つ一つの措置・取組みの習熟・徹底を着実にを行うことを旨とした実践的な研修を実施することとした。その他の取組みはすべて行った。					
⑦ 当年度の評価結果（定性含む）					
・ 各地域の防災訓練等を区内12地域で実施し、成果指標は目標値80%に対し実績値92.1%となり、前年度実績値88.1%を4ポイント上回り、目標を達成した。					
・ 「つるみんピック」に代わる地域防災リーダーに特化した訓練は、5地域で実施した。また、残りの7地域については、通常の防災訓練の中で実施した。					
・ 「災害時地域貢献協力事業所」一覧表を地域に配布し情報共有を行ったほか、地域の訓練参加についても調整を行った（1地域）が、地域の事情により実現には至らなかった。					
・ 個別避難計画の策定について、区役所から積極的に勧奨を行った結果、令和4年度から取組みを始めている地域を含め、区内5地域に対象を広げて取組みを進めることができた。					
⑧ 次年度の取組みの方向性					
・ 引き続き、区民の共助に向けた防災意識の向上のため、地域と区役所、関係機関、学校等が連携した防災訓練を行う。また、防災訓練等へこれまで参加したことがない方を取り込むため、防災訓練等の実施にあたっては地域への周知に力を入れる。更に、一般の方が参加しやすい内容となるよう地域防災向上アドバイザーを地域へ派遣し訓練内容を決定する。					
・ 個別避難計画の策定については、これまでに取組みを進めている地域に加えて、更に対象地域を広げていく。					

単年度計画・目標・実績	具体的取組 2 - 1 - 3 【区災害対策機能の強化（公助）】
-------------	----------------------------------

④ 当年度の取組内容（予定）

- ✓ 発災に備え、避難所等への防災用資機材の確保・充実
 - ・中学校へテレビ受信設備の設置
 - ・スポットクーラーの配置
- ✓ 区災害対策本部の整備・強化及び各地域の自主防災組織との連携
 - ・職員用防災マニュアルの充実及び研修の実施
 - ・地域の防災訓練へ避難所担当職員の参加
- ✓ 情報発信の強化
 - ・災害情報を得るための手段や情報サイトの周知
 - ・区防災計画などの取組みについて広報紙への掲載

※前年度と異なる取組内容「下線」

⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）
・ 区民アンケートで「区防災計画などの取組みを知っている」と回答した区民の割合
・ 「職員向け防災マニュアルを理解できている」と回答した区職員の割合

	R03	R04	R05
目標	・60%以上 ・100%※	・60%以上 ・100%※	・60%以上 ・90%以上
実績	・50.6% ・96.6%※	・48.2% ・66.7%※	・33.3% ・実施せず

※R03・R04の指標（2つ目）については、「職員に対する防災マニュアルや研修が整っていると感じている職員の割合」であり、R05年度から指標を⑤のとおりに変更

⑥ 当年度の取組内容（実績）

- ・ ④に記載の取組みのうち、「地域の防災訓練へ避難所担当職員の参加」については、1 地域と調整を行っていたが、開催時期にインフルエンザとコロナが流行の兆しを見せたため、調整の結果参加は見送りとなった。その他の取組みはすべて行った。

⑦ 当年度の評価結果（定性含む）

- ・ 成果指標のうち、「区防災計画などの取組みを知っている」区民の割合は目標値60%に対し実績値33.3%と、前年度実績値48.2%や目標値を下回る結果となった。
- ・ 令和4年度末に「避難所開設・運営ガイドライン」の更新を受けて、令和5年度に「広報つるみ」で、鶴見区地域防災計画などの取組みについて広報を行ったが、他のイベントでは周知できていなかったため、他のイベントでも積極的に周知していく必要がある。
- ・ 「職員向け防災マニュアルを理解できている」と回答した区職員の割合について、目標値90%以上としていたものの、職員訓練が能登地震のために中止となったことからアンケートは実施していない。

⑧ 次年度の取組みの方向性

- ・ 様々な取組みについての広報を「広報つるみ」始め、区のホームページや「X(旧:ツイッター)」に発信する他、地域防災訓練や安全・安心フェスタなどの防災に関する多くの来場者があるイベント会場などで周知し、多くの区民の目に触れるような機会を増やし、広く周知に努める。
- ・ 鶴見区災害対策本部職員としての知識や防災意識を高めるために、防災マニュアルや各種の防災研修内容の充実を図りながら引き続き実施する。

令和 5 年度鶴見区運営方針

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱 2 備える
	経営課題	2 安全なまちづくり

施策 2-2	方向性	街頭犯罪等や交通事故の少ないまちづくり
	内容	鶴見区を安全なまちにするため、地域、関係機関、事業所等と連携し街頭犯罪の抑止や特殊詐欺被害の防止等に取り組みます。また、交通事故の減少や自転車マナーの向上をめざし、啓発活動に取り組みます。

① 成果指標（中期）	区民アンケートで「安全で住みやすいまちと感じている」と回答した区民の割合
------------	--------------------------------------

② 目標・実績値						
	(R04)	R05	R06	R07	R08	R09
目標	90%以上	90%以上				90%以上
実績	90.3%	91.2%				

③ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標は、目標値90%に対し実績値が91.2%となり、目標値や前年度実績値90.3%を上回っている。
- 令和 5 年度 of 取組みについては、天候などにより未実施となったもの以外は実施できている。
- コロナ禍による日常生活の行動制限が解除されたのと連動して、街頭犯罪、特殊詐欺の件数、自転車の事故割合が増加しているが、これまでの取組みによりコロナ禍前と比べて犯罪件数は減少している。今後も引き続き、地域、警察、関係機関、事業所と連携し、啓発活動に取り組んでいく。

令和5年度鶴見区運営方針

単年度計画・目標・実績		具体的取組 2 - 2 - 1 【地域・関係機関と連携した防犯対策】		
④ 当年度の取組内容（予定）				
✓ 街頭犯罪発生件数の減少をめざした防犯意識の向上に係る取組み ・防犯カメラの取替 24台 ・関係機関等が連携した区内防犯活動 12回 ・防犯推進委員会議の実施 1回 ・自転車の2重ロック推進キャンペーン 12回 ・ひたくり防止キャンペーン 12回 ✓ 特殊詐欺認知件数の減少をめざした被害防止啓発に係る取組み ・青色防犯パトロール車を活用した注意喚起 ・防災行政無線を活用した認知状況の情報提供や注意喚起 ・ツイッターなどのSNSや、広報紙を活用した被害防止啓発 ・鶴見区住みます芸人を活用した特殊詐欺防止啓発動画の配信 ・電柱等を活用した注意喚起シートの設置 ・各種キャンペーン時での特殊詐欺防止啓発活動				
※前年度と異なる取組内容「下線」				
⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）				
・ 区民アンケートで「<u>区で実施している防犯事業が鶴見区の犯罪抑止につながっている</u>」と回答した区民の割合 ・ <u>街頭犯罪件数</u>				
		R03	R04	R05
目標		・ 85%以上 ・ 前年比 5%減	・ 85%以上 ・ 前年比 5%減	・ 85%以上 ・ 前年比 5%減
実績		・ 85.6% ・ 前年比 21%減	・ 79.5% ・ 前年比 8.7%増	・ 69.9% ・ 前年比 12.1%増
⑥ 当年度の取組内容（実績）				
・ ④に記載の取組みはすべて実施した。なお、防犯カメラの取替は1台メンテナンス契約により追加し25台、ひたくり防止カバーキャンペーンは雨天による中止が3回あり9回となった。				
⑦ 当年度の評価結果（定性含む）				
・ 各成果指標とも目標を達することができなかった。犯罪件数の増加は、コロナ禍による日常生活の行動制限が解除されたことと連動しているように推察される。なお、これまでの取組みにより、コロナ禍前と比べて犯罪件数が減少している。そうした中で特殊詐欺防止啓発動画を作成した。 ・ 特に、鶴見区の街頭犯罪の4割を占める自転車盗難の発生状況は、令和5年は335件であったが、コロナ禍前の令和元年の393件よりも件数は減少している。引き続き取組みを進める必要がある。				
⑧ 次年度の取組みの方向性				
・ 街頭犯罪については、増加傾向にある場所でのポスター掲示と青色防犯パトロール車での広報や警察と連携した啓発活動等を実施し、街頭犯罪件数の減少を図る。				

令和 5 年度鶴見区運営方針

単年度計画・目標・実績	具体的取組 2 - 2 - 2 【地域・関係機関と連携した交通安全対策】
-------------	--------------------------------------

④ 当年度の取組内容（予定）

✓ 交通事故防止や自転車マナーの向上をめざした啓発活動に係る取組み
・交通安全教室（子育て層・園児）の実施
・自転車マナーアップキャンペーンの実施
・高齢者交通安全研修会の実施
・高校生への自転車マナーの啓発
・放置自転車追放啓発活動
・区内駐輪場マップの作成、配布
・自転車交通違反事例について広報紙で最新情報の掲載

※前年度と異なる取組内容「下線」

⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）
交通事故死傷者数における自転車事故の割合

	R03	R04	R05
目標	30%以下	30%以下	30%以下
実績	37.8%	38.5%	39.8%

⑥ 当年度の取組内容（実績）

・ ④に記載の取組みを予定どおり実施。

⑦ 当年度の評価結果（定性含む）

・ 自転車事故については、コロナ禍による日常生活の行動制限が解除されたのを受け、実数は前年度111人から156人に増え、割合も前年度から38.5%から39.8%となっている。こうした状況を受けて、自転車事故の減少に向け、学校等の区内関係機関と連携し、自転車利用者に対する交通安全普及・啓発活動に取り組む必要がある。
・ 放置自転車については、地域と連携したことにより減少している。特に放置自転車が多かった J R 西日本放出駅前では、啓発の児童絵画シートを貼付し、放置自転車の台数減少に努めた。

⑧ 次年度の取組みの方向性

・ 自転車用ヘルメットの着用啓発や高校生の自転車マナー向上など自転車事故の減少を図る。



中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱3 育てる・まなぶ
	経営課題	3 子育てやまなびを応援するまちづくり

施策 3-1	方向性	安心して子育てできる環境づくり
	内容	地域の関係機関や関係団体と連携し、保護者やこどもが交流・情報交換できる場の設定や相談支援の充実、子育て等に関する情報発信の強化、また児童虐待防止に向け関係機関と連携を図り、支援や相談対応などを行います。 さらに、こどもの居場所の確保や学習支援など、安心して子育てできる環境づくりを進めます。

① 成果指標（中期）	区民アンケートで「鶴見区は子育てしやすいまちだと感じている」と回答した子育て世帯の区民の割合
------------	--

② 目標・実績値

	(R04)	R05	R06	R07	R08	R09
目標	90%以上	90%以上				90%以上
実績	87.2%	74.8%				

③ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標は目標値90%に対し実績値74.8%となり、目標値を下回るとともに、前年度の87.2%よりも12.4ポイント下降した。
- 令和5年5月にコロナ禍による日常生活の行動制限が解除され、日常生活が戻りつつある中で、「愛Loveこどもフェスタ」や、区内全地域での子育てサロンの再開時期を参加者に配慮し慎重に検討したことが、子育て世帯のニーズに合わず、目標値との乖離が生じた要因と考えられる。
- また、前年度からの実績値の下降についても、コロナ禍により子育て世帯が利用できる事業が少なくなっている状況が長期化したことが影響したものと思われる。
- しかしながら、地域の子育て支援の機運が醸成されつつあることから、今後、地域及び関係機関と連携し取組みを進め、周知も行っていく。
- 今後も引き続き、取組レベルにてPDCAサイクルを徹底し、持続的な改善を図ることで、区民が必要としている子育て情報の発信及び安心して子育てできる環境づくりに努めていく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組 3 - 1 - 1 【切れ目のない子育て施策の推進】
-------------	----------------------------------

④ 当年度の取組内容（予定）

✓ 関係機関等と連携した、子育て層が気軽につどい、交流できる場の提供 ・「愛 Love こどもフェスタ」の開催 1回 ・「つるみっ子ルーム」の運営 ・子育てサロン、つどいの広場等への支援
✓ 子育てに不安感や負担感を持っている保護者等に対する相談、支援の実施 ・子育て講演会の開催 1回 ・拡大子育て支援連絡会の開催 1回 ・つるみっ子ルームや子育てサロン等での保育士等による育児相談等の実施 ・直接顔を見て相談したいが、区役所への来庁が困難な方に、「オンライン相談」の実施 ・乳幼児健診会場での保育士による子育て全般にかかる相談コーナーの設置 ・助産師による母乳育児等専門相談の実施（乳幼児3か月児健診）
✓ 子育て関連情報の発信 ・「子育てマップ」「愛 Love こどもニュース」「すくすくカレンダー」等の発行 ・フェイスブック、ツイッター等を活用した子育て情報の発信 ・乳幼児健診での保育士による子育て情報の発信
✓ 区内保育施設情報の発信や保育環境の充実 ・幼稚園・保育所等情報フェアの開催 1回 ・子ども園ネットワーク事業や私立保育園との意見交換会の実施

※前年度と異なる取組内容「下線」

⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）		R03	R04	R05
・ 子育て支援事業の利用者へのアンケートで「当該事業が役に立った」と回答した割合 ・ 区民アンケートで「子育てに関する相談窓口を知っている」と回答した子育て世帯の区民の割合 ・ 区民アンケートで「子育てに関する必要な情報が入手出来ていると感じている」と回答した子育て世帯の区民の割合	目標	・85%以上 ・85%以上 ・75%以上	・85%以上 ・85%以上 ・75%以上	・85%以上 ・85%以上 ・75%以上
	実績	・96% ・86.8% ・77.9%	・97.6% ・90.6% ・74.4%	・95.3% ・91.0% ・65.4%

⑥ 当年度の取組内容（実績）

・ ④に記載の取組みのうち、「愛 Love こどもフェスタ」は、実行委員会の決定を受け中止したが、その他の取組みはすべて行った。
--

⑦ 当年度の評価結果（定性含む）

・ 成果指標において、3項目中2項目の実績値が目標値を上回った。
・ 目標値に至らなかった「子育てに関する必要な情報が入手出来ていると感じている」と回答した区民の割合についても、「30歳未満」では100%であり、ターゲットとなる世代に情報を提供できていると考えている。
・ 令和5年5月にコロナ禍による日常生活の行動制限が解除され、子育て世代の子育て支援事業に対するニーズが高まる中で、昨年度に引き続きコロナ禍前の事業再開に向け模索する1年であったが、「愛Loveこどもフェスタ」の開催については就学前の乳幼児及び保護者が対象であることから、実行委員会において慎重に検討した結果開催を断念したこと、区内全ての地域子育てサロンの再開も令和6年2月と休止期間が長くなり、子育て世代のニーズに当事業の再開が追いつけなかった。

⑧ 次年度の取組みの方向性

・ 引き続き、④に記載の取組内容を進めていく。
・ 令和5年度開催を断念した「愛Loveこどもフェスタ」について令和6年度再開が決定し、各地域子育てサロンも現在は再開され地域の子育ての機運が醸成されつつあることから今後、地域及び関係機関と連携し取組みを進め周知も行っていく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組 3 - 1 - 2 【児童虐待防止対策】
-------------	----------------------------

④ 当年度の取組内容（予定）

- ✓ 重大な児童虐待※ ゼロの維持に向けた訪問・相談事業の実施
 - ・保育士及び臨床心理士を配置し、家庭訪問等による子育てに関する助言や関係機関へのつなぎ等の支援（就学前こどもサポートネット事業 ～つるみにここへ訪問～）
（※ 重大な児童虐待とは、身体的虐待やネグレクト等により、死亡や後遺症が残る等、生命の危険にかかわる重傷事案）
- ✓ 児童虐待防止啓発
 - ・各種イベント・事業開催時に、通告や相談を促す内容のチラシ・啓発グッズを配布
 - ・ホームページ、ツイッター等での啓発 ・児童虐待防止に関する講演会の開催 1回
- ✓ 関係機関と連携した状況に応じた支援・相談対応
 - ・拡大子育て支援連絡会の開催 1回（再掲） ・主任児童委員、学校との連携強化
- ✓ 要保護児童の早期発見
 - ・安全確認ができない未就園児等の全戸訪問 1回

※前年度と異なる取組内容「下線」

⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）
重大な児童虐待件数

	R03	R04	R05
目標	ゼロの維持	ゼロの維持	ゼロの維持
実績	ゼロ	ゼロ	ゼロ

⑥ 当年度の取組内容（実績）

- ・ ④に記載の取組みのうち、就学前こどもサポートネット事業（つるみにここへ訪問）について、臨床心理士の募集を行ったが応募がなく採用とならなかった。事業については、適正に実施した。

⑦ 当年度の評価結果（定性含む）

- ・ 就学前こどもサポートネット事業について、対象世帯（2歳、4歳児）1,170件に対しアンケートを送付した。回答者585件をもとに、要対応者全件の対応を実施（電話相談：136件、家庭訪問：6件）し、ニーズをもとに保護者の負担感の軽減に繋げた。アンケート未回答者585件についても、乳幼児健診や医療機関の受診状況、所属の有無等を確認し、状況の把握は全件終了している。
- ・ 児童虐待防止のため、講演会、拡大子育て支援連絡会は年1回開催し、地域との連携強化に努めた。コロナ期間中は学校の休業等があり、連携共有がうまく図れない時期もあったが、コロナ禍による日常生活の行動制限が解除された後は所属との連携を密にとり、要対協の実務者会議や個別ケース検討会議を通じて、連携共有を行っている。
- ・ 安全確認ができない未就園児等の全戸訪問について、所属が無い等の調査対象者554件に対し、その後の調査で乳幼児健診や受診等で553件は目視確認ができた。しかし、関係機関で目視確認ができなかった1件については、手紙送付や家庭訪問を繰り返し実施した。最終的には年度末に居宅で本児の目視確認を行うことができ、鶴見区内のすべての児童の安全確認が実施できた。今後も、虐待の早期発見に努め、必要に応じて児童の安全確認を実施していく必要がある。

⑧ 次年度の取組みの方向性

- ・ 引き続き、鶴見区内で重大な児童虐待を発生させないよう関係機関と連携をとり、適切な保護者支援の実施、児童の安全確認と虐待の早期発見に努め、適切に対応をしていく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組 3 - 1 - 3 【こどもに寄りそう事業】
-------------	------------------------------

④ 当年度の取組内容（予定）

✓ 普通教室で授業等が受けられない児童・生徒を対象に、別教室等で個々の児童・生徒の課題に即した学習指導・支援の実施 ・区内12小学校及び区内5中学校
✓ こどもの居場所づくり等を実施している事業者・団体に向けた支援 ・「こどもの居場所ネットワーク会議」の開催 ・「こどもの居場所オープン会議」の開催等 ・「こどもの居場所」開設支援全区展開に伴って、関心を持っている方へ開設に向けた情報の提供・支援 ・「こどもの居場所」情報の発信

※前年度と異なる取組内容「下線」

⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）
「対象児童・生徒が学習支援等により登校状況や学習面で効果が見られた」と回答した教職員の割合

	R03	R04	R05
目標	70%以上	70%以上	90%以上
実績	94.1%	96.8%	95.2%

⑥ 当年度の取組内容（実績）

・ ④に記載の取組みのうち、「普通教室で授業等が受けられない児童・生徒を対象に、別教室等で個々の児童・生徒の課題に即した学習指導・支援の実施」では、区内小中学校に加えて、鶴見区役所でも実施した。
・ 「こどもの居場所づくり等を実施している事業者・団体に向けた支援」のうち、「こどもの居場所ネットワーク会議」及び「こどもの居場所オープン会議」は、共有する情報がなかったことから関係団体の総意により開催を見送った。その他の取組みはすべて行った。

⑦ 当年度の評価結果（定性含む）

・ 当初予定していた取組みの多くを実施することができ、成果指標の目標値90%に対して実績値が95.2%となり、目標値を上回った。
・ 普通教室で授業等が受けられない児童生徒や登校支援が必要な児童生徒が、別室等で学習支援を受けることで、学習に意欲的に取り組み、安心して別室登校や普通教室で授業を受けることができ、学習支援・不登校支援に寄与したと考えている。
・ 「こどもの居場所」は令和 5 年度は16か所開設されており、引き続き情報提供及び情報共有を行う。

⑧ 次年度の取組みの方向性

・ 引き続き、児童生徒への学習支援や不登校支援、教職員への学校運営支援に取り組み、児童生徒に寄り添った効果的な支援に努めていく。
・ 令和 5 年度より「大阪市こどもの居場所開設支援事業」が全区展開となったことも踏まえ、引き続き関係部署や地域等と連携し、「こどもの居場所」開設に向け取組みを行う。

令和 5 年度鶴見区運営方針

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱 3 育てる・まなぶ
	経営課題	3 子育てやまなびを応援するまちづくり

施策 3-2	方向性	まなびを通じたつながりづくり
	内容	幅広い層に「まなびの場」を知ってもらうとともに、「まなび」を通じたつながりづくりを進めます。

① 成果指標（中期）	① 区民アンケートで「まなびを通してつながりを感じている」と回答した区民の割合 ② 区民アンケートで「人権尊重のまちづくりが進んでいる」と回答した区民の割合
------------	---

② 目標・実績値						
	(R04)	R05	R06	R07	R08	R09
目標	① 50%以上 ② 35%以上	① 68%以上 ② 42%以上				① 75%以上 ② 50%以上
実績	① 57.4% ② 27.8%	① 57.9% ② 29.9%				

③ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標は、目標値①68%②42%のところ、実績値①57.9%②29.9%と目標値には至らず、前年度実績値と同水準であった。
- 各地域での区民ボランティアが実施する普及啓発活動や区の啓発事業等は着実に進んできているものの、テーマ設定や取組手法について区民ニーズにマッチできていない事業もあったと考えられるため、どうアプローチしていくか実施手法等、今後の課題として取り組んでいく必要がある。
- 社会情勢や区民のニーズを考慮しながら引き続き、さまざまな世代の区民の興味・関心や課題等に対応した情報や体験する場を、実施手法等について検討・工夫しながら、提供していくことで、区民一人ひとりの主体的な人権意識の向上やまなびに対する意欲に繋げていく。

単年度計画・目標・実績		具体的取組 3 - 2 - 1 【生涯学習の推進】														
④ 当年度の取組内容（予定）																
✓ 学習機会の提供と成果を生かす取組み ・生涯学習ルームフェスティバル、生涯学習一日体験 ・家庭教育支援講座（家庭教育に関する講演会等のイベント） ・区民との協働企画（生涯学習セミナー、おもてなし茶会等） ✓ 新しい生活様式等に対応した、生涯学習機会の支援及び広報周知 ・生涯学習ルーム事業の運営支援 ・生涯学習ルームをはじめとする生涯学習活動の広報周知 ・個人や社会教育関係団体等からの学習相談や情報提供																
※前年度と異なる取組内容「下線」																
⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）		<table><tr><td></td><td>R03</td><td>R04</td><td>R05</td></tr><tr><td>目標</td><td>・80%以上 ・80%以上</td><td>・80%以上 ・80%以上</td><td>・80%以上 ・80%以上</td></tr><tr><td>実績</td><td>・80.4% ・100%</td><td>・91.6% ・54.2%</td><td>・85.7% ・61.4%</td></tr></table>				R03	R04	R05	目標	・80%以上 ・80%以上	・80%以上 ・80%以上	・80%以上 ・80%以上	実績	・80.4% ・100%	・91.6% ・54.2%	・85.7% ・61.4%
	R03	R04	R05													
目標	・80%以上 ・80%以上	・80%以上 ・80%以上	・80%以上 ・80%以上													
実績	・80.4% ・100%	・91.6% ・54.2%	・85.7% ・61.4%													
⑥ 当年度の取組内容（実績）																
・ ④に記載の取組みを予定どおり実施。																
⑦ 当年度の評価結果（定性含む）																
・ アンケート結果についての成果指標は、目標値80%に対し実績値が85.7%（総事業平均）となり、目標を達成できた。 ・ 一方、参加率についての成果指標は、生涯学習セミナーなど満員となった事業もあったものの、家庭教育支援講座では、テーマを思春期時期の子を持つ保護者にとって関心の高いと思われる「子どもとスマートフォンの関わりせ方」についての講演会とし、開催日を来場しやすい休日としたうえで、広報紙・ホームページのみならず小・中学校を通じて保護者へのチラシ配布など事業広報にも努めたものの、企画内容とターゲットである保護者層のニーズにマッチしなかったと考えられるため、目標値80%に対し実績値61.4%となり、目標値には至らなかったが前年度実績値54.2%より7.2ポイント上回った。																
⑧ 次年度の取組みの方向性																
・ 慎重に区民ニーズや社会情勢をくみ取ったテーマを選定し、さまざまな実施方法を区生涯学習推進員とも協議・検討しながら、より多くの人々の関心を引き付け興味を持っていただける事業計画を立案するとともに、さまざまな媒体を活用し、広報・周知を行う。																

令和5年度鶴見区運営方針

単年度計画・目標・実績	具体的取組 3 - 2 - 2 【人権教育の推進】
-------------	---------------------------

④ 当年度の取組内容（予定）

✓ 関係団体と連携した人権教育の機会の提供	・ヒューマンシアター（人権啓発に関するイベント）	・人権啓発推進セミナー（人権啓発に関する学習会）
	・校下別人権学習会	・地域人材育成講座
	・地域における人権学習の相談や情報提供	・小学校区や学校単位の団体の人権学習会活動の支援
✓ 様々な機会を活用した人権啓発の取組み	・区イベント等での啓発活動	・平和学習パネル展の実施

※前年度と異なる取組内容「下線」

⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

a.各事業の参加者へのアンケートで「人権に対する理解が深まった」「新たな気づきがあった」と回答した割合(総事業平均)				
b.各事業（定員設定を行っているもの）の定員に対する申込参加者数（総事業平均）				
	R03		R04	
目標	a. 80%以上※ b. 70%以上※		a. 80%以上※ b. 70%以上※	
実績(a)※	・人権啓発推進セミナー① 98.4% ・人権啓発推進セミナー② 87.9% ・ヒューマンシアター 89.8%	92.0%	・人権啓発推進セミナー① 89.8% ・人権啓発推進セミナー② 91.3% ・ヒューマンシアター 86.1%	89.1%
実績(b)※	・人権啓発推進セミナー① 68.5% ・人権啓発推進セミナー② 80.0% ・ヒューマンシアター 28.0%	58.8%	・人権啓発推進セミナー① 42.5% ・人権啓発推進セミナー② 85% ・ヒューマンシアター 83.75%	70.4%

※R03・R04の目標・実績値については、「個々の事業」について表記を行っていたが、R05年度から指標を⑤のとおり「総事業の平均」へ変更

⑥ 当年度の取組内容（実績）

・ ④に記載の取組みを予定どおり実施。

⑦ 当年度の評価結果（定性含む）

・ アンケート結果についての成果指標は、目標値80%に対し実績値93.6%（総事業平均）であり、目標を達成できた。
・ 参加率についての成果指標においても、目標値70%に対し実績値95.9%（総事業平均）となり、目標を達成することができた。特に「つまみヒューマンシアター」については、区民が参加しやすい映画上映という方法で人権啓発事業を実施したため、定員以上の来場者を集めることができ、大きな事業効果が得られたと考えている。

⑧ 次年度の取組みの方向性

・ 引き続き区民ニーズを意識しつつ、人権意識の啓発・向上につながっていく事業を企画するとともに、人権啓発推進員とも協調し、地域での身近な人権啓発活動にも注力する。

令和 5 年度鶴見区運営方針

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱 3 育てる・まなぶ
	経営課題	3 子育てやまなびを応援するまちづくり

施策 3-3	方向性	学校教育の支援
	内容	区役所が学校や地域、保護者のニーズや意向を把握し、効果的な学校支援を進めます。

① 成果指標（中期）	「学校や保護者のニーズ、意向が教育行政に反映されていると思う」と回答した校長・教頭の割合
------------	--

② 目標・実績値						
	(R04)	R05	R06	R07	R08	R09
目標	90%以上	90%以上				90%以上
実績	100%	97.1%				

③ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標(中期)は、目標値90%に対して実績値は97.1%となり、目標値を上回った。
- 成果指標(単年度)の実績値は100%であり、成果指標(中期)の実績値も安定的に高値で推移していることから、引き続き教育行政におけるニア・イズ・ベターの観点より、区役所や地域、保護者が連携し、学校ニーズを反映した学校教育の支援の促進を図っていく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組 3 - 3 - 1 【学校教育の支援】
-------------	---------------------------

④ 当年度の取組内容（予定）

- ✓ ニーズや意向を把握する各種取組み
 - ・教育行政連絡会（学校と区役所による連絡調整・協議）の開催　＜小・中学校　1 回以上＞
 - ・学校協議会への参加　＜幼・小・中（18校園）　各学期 1 回ずつ＞
 - ・校長会・教頭会への参画　＜概ね毎月 1 回＞
- ✓ 校長経営戦略支援予算を活用した小・中学校への支援
 - ・教育活動サポート事業
（児童生徒の学力・体力の向上や教員の指導力向上等に資するため、外部講師を学校等へ招聘）
 - ・民間事業者を活用した課外学習支援事業（中学校3校）
- ✓ 夢・未来創造事業（出前授業）の実施（小学校12校）
（専門的な知見・ノウハウ等を有する個人・企業が無償で児童に対して授業を行う）
- ✓ 小・中学校の各種ボランティアやサポーター等を広報紙にて募集（適宜）

※前年度と異なる取組内容「下線」

⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）
「区役所からの支援が学力・体力・情操教育等の向上につながったと思う」と回答した校長・教頭の割合

	R03	R04	R05
目標	90%以上	90%以上	90%以上
実績	97%	100%	100%

⑥ 当年度の取組内容（実績）

- ・ ④に記載の取組みを予定どおり実施した。なお、民間事業者を活用した課外学習支援事業では、中学校 3 校だけではなく、小学校 1 校でも実施した。小中学校の各種ボランティアやサポーター等の広報紙での募集については、学校からの依頼に応じて適宜実施する予定であったが、学校からの掲載依頼がなかったため実施しなかった。

⑦ 当年度の評価結果（定性含む）

- ・ 成果指標の目標値90%に対して実績値が100%となり、目標を達成することができた。
- ・ 児童生徒の学力・体力等や教員の指導力の向上等に資するための、外部講師による「教育活動サポート事業」、基礎学力の向上や学習習慣の定着を目的とした「民間事業者を活用した課外学習支援事業（つるみ塾）」、企業等が有する専門的な知見等を教材とする小学校への出前授業「夢・未来創造事業」など、各種事業の実施により、区役所の支援に対する校長・教頭の評価が安定して高値につながり、学校教育の支援に寄与したと考えている。

⑧ 次年度の取組みの方向性

- ・ 引き続き、各種事業に取り組み、区役所や地域、保護者が連携し、学校ニーズを反映した学校教育の支援の促進を図っていく。

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱 4 聴く・伝える
	経営課題	4 まちづくりを支える広報・広聴の充実

施策 4 - 1	方向性	区政情報の発信及び区民ニーズの把握
	内容	あらゆる世代に必要な情報をわかりやすく提供できるよう情報発信をおこなうとともに、区政会議等により多様な区民ニーズの把握に努めます。

① 成果指標（中期）	区民アンケートで「鶴見区が実施する広報（区広報紙、区ホームページ、SNS、区広報板など）で、必要とする区政情報が必要なときに入手できている」と回答した区民の割合
------------	--

② 目標・実績値

	(R04)	R05	R06	R07	R08	R09
目標	－	70%以上				75%以上
実績	71.3%	59.8%				

③ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標の実績値は59.8%となり、目標値や前年度の実績値を下回った。当該指標について調査を始めた令和2年度から4年度にかけては、新型コロナウイルス感染症に関するお知らせを区政情報として発信していたことから70%台の数字で推移してきたが、令和5年5月にコロナ禍による日常生活の行動制限が解除されたことから、このような数字に落ち着いたと推察される。区民が区政情報を必要なときに入手できるよう、区ホームページでの情報発信やLINEセグメント配信等を引き続き推進していく必要がある。
- 成果指標(単年度)の目標未達成となった取組みもあったため、今後も引き続き取組レベルにてPDCAサイクルを徹底し持続的な改善を図ることで、全世代に知っておいてもらいたい区政情報の発信及び多様な区民ニーズの把握に努める。

令和 5 年度鶴見区運営方針

単年度計画・目標・実績	具体的取組 4 - 1 - 1 【区民が必要としている区政情報の発信】
-------------	-------------------------------------

④ 当年度の取組内容（予定）

✓ 各種広報媒体を活用した情報発信
・区広報紙「広報つるみ」の発行及び全戸配布（毎月 1 日発行、12 頁、発行部数：55,500 部）
・区ホームページ、SNS（Facebook, Twitter）及び区広報板（54 基）による区政情報の発信
✓ 大阪・関西万博開催に向けた機運醸成を目的とした区広報紙の特集号を作成
・12 回発行のうち 1 回は、16 頁建てに変更し、万博特集 4 頁を含む内容で発行する。

※前年度と異なる取組内容「下線」

⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）
区民アンケートで「 <u>区広報紙や区ホームページ、SNS、区広報板を見て、区政（事業等の内容、イベントやお知らせ）について関心が高まった</u> 」と回答した区民の割合

	R03	R04	R05
目標	(未設定)	(未設定)	60%
実績	53.4%	62.7%	60.3%

⑥ 当年度の取組内容（実績）

・ ④に記載の取組みを予定どおり実施。

⑦ 当年度の評価結果（定性含む）

・ 成果指標の目標値である60%に対して実績値が60.3%であり、前年度より微減したものの目標値に達している。
・ 毎月発行する区広報紙は、多くの方に手に取ってもらうために、表紙にイラストを配して目を引くデザインになるよう心がけた。また、見やすい紙面にするため、催しやお知らせ等の掲載情報を区分ごとに色分けするなど工夫した。さらに健診・がん検診情報を掲載した特集号や2025年大阪・関西万博の特集号などは区民の関心が高く、駅・商業施設等に配架したのも数多く手に取られていることから、区民が必要としている区政情報の発信及び大阪・関西万博に向けた機運醸成に貢献したと考えている。

⑧ 次年度の取組みの方向性

・ 引き続き、各種広報媒体を活用した情報発信を行うとともに、ニーズやタイミングを考慮したうえで、時機に即した効果的な情報発信に努めていく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組 4 - 1 - 2 【多様な区民ニーズの把握】		
④ 当年度の取組内容（予定）	✓ ニーズや意向を把握する各種取組み ・区政会議の開催 ・区民アンケートの実施 ・区長と区民の意見交換会 ※前年度と異なる取組内容「下線」		
⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）			
「区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、十分に区役所や委員との間で意見交換が行われていると感じている」と回答した区政会議委員の割合		R03	R04
		R05	
目標	－	－	75%
実績	66.7%	68.2%	63.6%
⑥ 当年度の取組内容（実績）	・ ④に記載の取組みを予定どおり実施。		
⑦ 当年度の評価結果（定性含む）	・ 成果指標は実績値が63.6%となり、目標値75%を下回った。区政会議委員からのアンケート結果では、議論の前提となる区の現状や行政の仕組みなどに関する知識が不足している旨の意見が多かったことから、議論の前提となる知識を補完できるような機会の提供が必要である。 ・ 区民アンケート調査については、回収率向上に向け督促状を出す等工夫した結果、回収率が前年度より10 ポイント以上向上した（令和 4 年度第 1 回47.5%、第 2 回44.8%➡令和 5 年度第 1 回57.8%、第 2 回60.4%）。 ・ 「区長と区民の意見交換会」については、鶴見南小学校（6 年生）、焼野小学校（4 年生）の児童が、自ら「くらし・まちづくり」について調べ学習した成果を発表し、区長の講評を受けた後、区長と意見交換を行った。区役所が普段把握することが難しい児童の意見を直接聞く機会となり、児童にとっても身近なくらしやまちづくりに関心を持ち、課題を洗い出して意見を述べる学習機会になったと考えられる。また、教員からも「意見交換会以降、児童の学校生活での行動や発言の積極性が増す等の良い効果が見られた」といった好評を得た。		
⑧ 次年度の取組みの方向性	・ 区政会議については、さらに実効性のある会議となるよう、区政会議委員を対象とした勉強会や意見交換会も実施し、活発な意見交換に繋げていく。 ・ 区民アンケート調査については、アンケート配付時や督促時にアンケートの意義を明示して提出を促し回収率の向上に努めることで、質の高い調査にしていくとともに、職員の社会調査や統計学に係る知見を深めることに努める。 ・ 「区長と区民の意見交換会」については、くらしやまちづくり等に直結する行政を身近に感じ、考えていただく機会として、引き続き実施していく。		



中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱 5 共に生きる
	経営課題	5 環境にやさしいまちづくり

施策 5 - 1	方向性	環境を守り自然と共生したまちづくり
	内容	2030年までを目途とする持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、SDGsの区民への浸透を図るなど、SDGsにかかる取組みを進めています。

① 成果指標（中期）	区民アンケートで「日頃から意識してSDGsに取り組んでいる」と回答した区民の割合
------------	--

② 目標・実績値

	(R04)	R05	R06	R07	R08	R09
目標	－	73%以上				80%以上
実績	71.0%	69.8%				

③ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標は実績値が69.8%であり、前年度よりも微減し、目標値73%を若干下回った。
- 今後も引き続き広報や花と緑豊かな環境づくりや環境についての学習機会を通して、SDGs等への区民の理解を図り、環境を守り自然と共生したまちづくりを進めていく必要がある。

単年度計画・目標・実績	具体的取組 5 - 1 - 1 【SDGsの推進】
-------------	---------------------------

④ 当年度の取組内容（予定）

✓ SDG s の推進 ・区内の小学生向けに、SDG s の周知 ・日々の行動がSDG s に関連している意識づけ ・広報紙での周知	✓ 花と緑豊かな環境の推進 ・区民の方が花や緑に触れる機会を創出する ✓ 環境についてのまなび ・環境講座等、環境局と連携し取組む
---	--

※前年度と異なる取組内容「下線」

⑤ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）
・ 区民アンケートで「鶴見区が花や緑あふれるまちと感じている」と回答した区民の割合
・ 区民アンケートで「SDG sを知っていた」と回答した区民の割合

	R03	R04	R05
目標	・85%以上 ・(未設定)	・85%以上 ・(未設定)	・85%以上 ・60%以上
実績	・85.0% ・45.5%	・79.0% ・61.6%	・80.9% ・66.6%

⑥ 当年度の取組内容（実績）

・ ④に記載の取組みを予定どおり実施。

⑦ 当年度の評価結果（定性含む）

・ 花や緑あふれるまちについての成果指標は実績値80.9%となり、前年度実績値を上回ってはいるものの、目標値85%には至らなかった。
・ 区民が花や緑に触れる機会の創出として種花ボランティアによる種花事業を全12地域の参加で実施していたが、コロナ禍による事業中止、ボランティア高齢化による作業労力の負担増大等により、現在参加地域が6地域まで減少してきたことから、暑い時期の水やりの負担軽減を図るため、自動散水装置等を設置した。こうした取組みにより、ボランティアも参加しやすくなり、当該事業の目的を果たすとともに、ボランティア同士のコミュニケーションも増えている。今後も、運営状況を踏まえ持続的な取組みとなるよう、改善を進めていく必要がある。多くの方に花や緑あふれるまちと感じていただくためには一朝一夕で成果をあげることは困難であり、区事業のみならず関係局等との協働が欠かせないことから、既存事業の改善を図ることに重点を置きつつ、関係局等とも連携しながら持続的な取組みを行っていく必要がある。
・ 花の種・球根配布事業については、SNS等も活用して募集して多くの方から応募があった。
・ SDG s の推進についての成果指標は実績値66.6%となり、目標値60%を上回った。内訳として、若い世代の認知度が8割程度と高い一方、全市的に高齢者の認知度が3割程度と低い傾向が見られることから、日常生活行動がSDGsに繋がっていることを紹介し、「SDG sは専門的で難解な遠い世界の問題」といった印象を払拭していく必要がある。
・ 環境についてのまなびは当初予定していた取組みを全て実施することができた。小学生を対象にオリジナルの「SDGsゴール」を募集する「SDG sポスターコンクール」を初めて実施したところ、想定を超える参加があり、審査した教員からも好評を得た他、若い世代にもSDGsへの関心を高めることに貢献した。

⑧ 次年度の取組みの方向性

・ 花や緑あふれるまちであると感じられるよう、引き続き区民の方が花や緑に触れる機会の創出を行うとともに、新たな人材の発掘を進めるため、花の種・球根配布事業や種花ボランティアの募集について積極的に広報（区広報紙や区ホームページへの掲載及びポスターの作成等）を行う。種花ボランティアを対象に水やりの負担軽減の取組みの検証はじめ、活動を充実させるための意見交換を行うことを通して、必要な改善・対策を講じていくなどにより、種花事業が持続可能なものとなるよう努める。
・ SDG s の推進については、今後も全ての方に向けた継続的な周知・啓発を行っていく。また、高齢者における認知度を高めるため、広報紙等で日常生活行動がSDG sに繋がっていることを紹介し、より身近に感じられるよう意識づけを行う。また、引き続き「SDG sポスターコンクール」や、環境局と連携した環境学習講座を実施する。